

はじめに

本年8月より、文部省科学研究費特定領域研究「古典学の再構築 20世紀後半の研究成果総括と文化横断的研究による将来的展望」を、5年計画で開始することとなった。

この特定領域研究は、近代古典学諸学の再構築を目的としている。

古典の科学的究明をめざし、19世紀のヨーロッパに確立された古典学諸学は、近代国家の「理性」の営為の担い手のひとつであった。しかしそれはまた、当時の西欧特有の価値観に基づいており、しばしば例えば、精神（テクノロジー）による肉体（自然）の制御や、合理性・機能性のみの追求、非キリスト教思想の軽視等を包含していた。このような古典学諸学が、19世紀末に日本に移植されたのである。

現在、日本の古典学諸学は、各分野に高水準の研究者を擁し、諸文明本来の論理を究明するに足る力量を備えている。本特定領域研究の課題は、この現状に鑑みて、西欧近代特有の価値観を離れた可能な限り客観的な視点から、2世紀に満ちようとする近代古典学の成果の総括を行い、新しい古典学を再構築し、新しい古典像を提示することである。

この課題遂行のために、本特定領域研究は、各古典学の孤立を史上初めて解消し、古典学諸学が連携し、成果を共有しつつ課題に対処することとした。近年の電子テキストの蓄積が古典学を質的に変えつつあり、利用に関する標準の確立と普及が古典学全体の急務であることもまた、この古典学諸学の連携を要請している。

上記の目的と方法によって、最終的に我々が提出する「研究成果」と「新しい古典の日本語訳」が、日本人の人間観、世界観をより精密にし、かつ深化させることを願っている。

本特定領域は、これを準備する文部省科学研究費「基盤研究」(企画調査)を申請して以来、2年近くの計画研究班員総員の努力の結果、平成10年7月特定領域として選定され、総括班研究を開始した。そのニューズレターである本誌『古典学の再構築』第1号は、平成11年度から本領域に加わる公募研究の応募案内を主目的として編集したものである。本研究の一層の充実のため、多くの研究者が趣旨を知り、公募研究に参加下さるよう、心からお願い申し上げます。

1998年10月1日

領域代表 中谷 英明